

マイクロ波映像レーダがとらえた有珠山噴火後の様子（1）

データ収集：独立行政法人・通信総合研究所

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

通信総合研究所が開発した航空機搭載マイクロ波映像レーダ(Polarimetric and Interferometric Airborne Synthetic Aperture Radar System: PI-SAR)がとらえた有珠山噴火後の洞爺湖温泉周辺の様子です。平成12年3月31日の噴火から1週間後の4月6日に観測された画像です。水平(H)・垂直(V)偏波の組み合わせから観測されるHH偏波、HV偏波、VV偏波画像をそれぞれR(赤)、G(緑)、B(青)に割り当ててカラー合成処理したものです。金比羅山中腹の噴火口の状態がよく判読できます。マイクロ波リモートセンシングは「昼夜全天候型観測」が可能であるといった特徴があり、雲や噴煙の影響を受けずに地表面の状態を観測できます。今後様々な分野での活用が期待されています。

